

10月1日現在の就職活動状況

倫理憲章で正式内定日と謳われている10月1日を迎え、学生の内定状況はどのように変化しただろうか。10月1日現在の学生モニターの就職活動状況について調査した。入社前後で身に付けておきたいスキルや就職活動費用などについても尋ねた。

1. 10月1日現在の内定状況

- 内定率は87.6%。前年同時期(86.2%)より1.4ポイント上昇
- 内定者のうち、就職先を決定し活動を終了したのは91.9%

2. 未内定者の今後の予定

- 「就職先が決まるまで就職活動を続ける」が53.4%と2年ぶりに半数を超える

3. 就職活動継続者の状況

- 就職活動継続者の88.3%が「新たな企業」を探していると回答
- 新たな企業を探す手段は「就職情報サイト」82.3%、「新卒紹介サービス」24.8%

4. 入社前後に身に付けておきたいこと

- 入社前に身に付けたいのは「ビジネス基礎知識」59.5%、「コミュニケーション能力」54.7%
- 入社後に伸ばしたいのは「人的ネットワーク(人脈づくり)」53.7%、「問題解決力」52.1%、「マネジメント能力」50.2%

5. 内定承諾後の辞退

- 「内定承諾後」の辞退経験者は37.4%。前年より2.3ポイント減少
- 辞退の理由は「その企業のマイナス面に気付いた」が前年より9.0ポイント上昇

6. 中小企業への選考応募状況

- 中小企業の選考を受けた学生は63.0%。前年より2.4ポイント減少
- 中小企業を受けた理由は、「やりたい仕事に就ける」38.5%

7. 就職活動の費用

- 平均151,326円で、前年調査より約5,600円減少

8. 求人票の認知度

- 4割弱(38.1%)の学生が求人票の存在を「知らない」と回答

《調査概要》

調査対象：2015年3月卒業予定の全国の大学4年生(理系は大学院修士課程2年生含む)
 回答数：1,177人(文系男子371人、文系女子308人、理系男子335人、理系女子163人)
 調査方法：インターネット調査法
 調査期間：2014年10月1日～7日
 サンプルング：日経就職ナビ2015就職活動モニター

◆本資料に関するお問い合わせ先：03-4316-5505/株式会社ディスコ キャリアリサーチ

「日経就職ナビ 就職活動モニター調査」は、株式会社日経HRと株式会社ディスコが大学生の就職活動状況を調査することを目的として実施しています。
 日経就職ナビは日本経済新聞社が主管し、株式会社日経HRが企画・管理を担当し、株式会社ディスコが運営事務局を務めています。

1. 10月1日現在の内定状況

10月1日現在の学生モニターの内定率は87.6%。前回調査(7月1日時点)では、79.3%だったので、この3カ月で8.3ポイント伸びた。7月までの内定率は前年より半月程度早いペースで推移していたが、ここに来て前年(86.2%)より1.4ポイント増と差が縮まった。

内定者のうち就職先を決定して活動を終了したのは91.9%で、前年同期より0.8ポイント減。前年同期は、文理男女とも9割以上が活動を終了していたが、今回、文系男子は9割に届かなかった。そのため就職活動継続者も7.7%と前年(6.3%)を上回っている。内定をもちながら、就職先を決めかねている姿が想像できる。

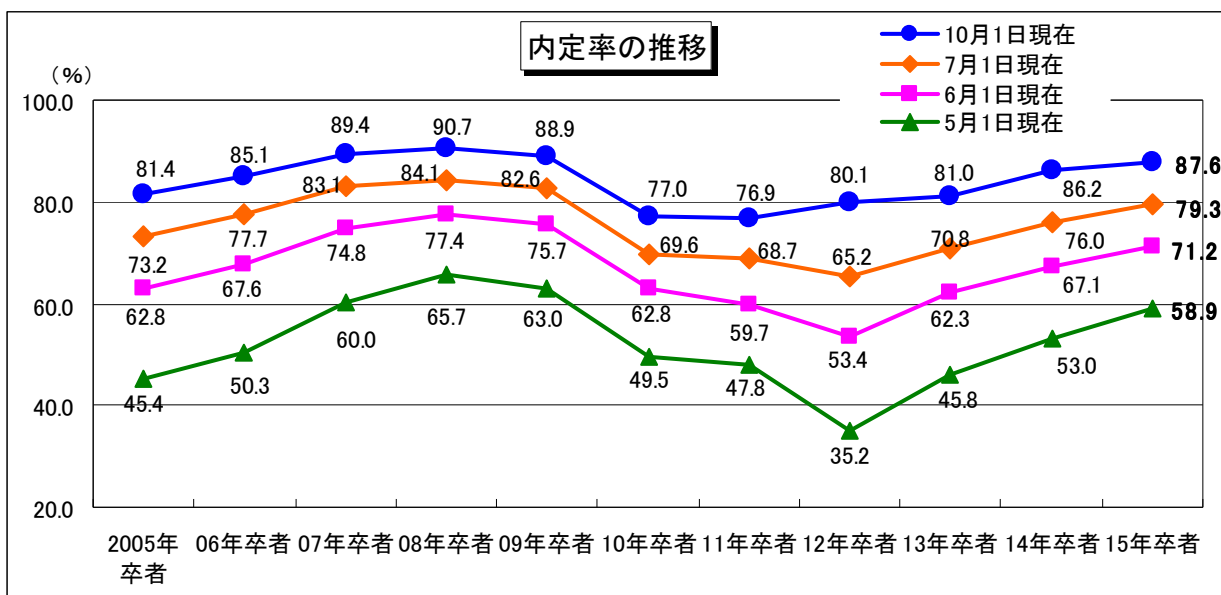
なお、本調査時点での就職先決定者の割合は、モニター全体の80.5%で、前年(79.8%)より0.7ポイント増であった(次ページ円グラフ)。

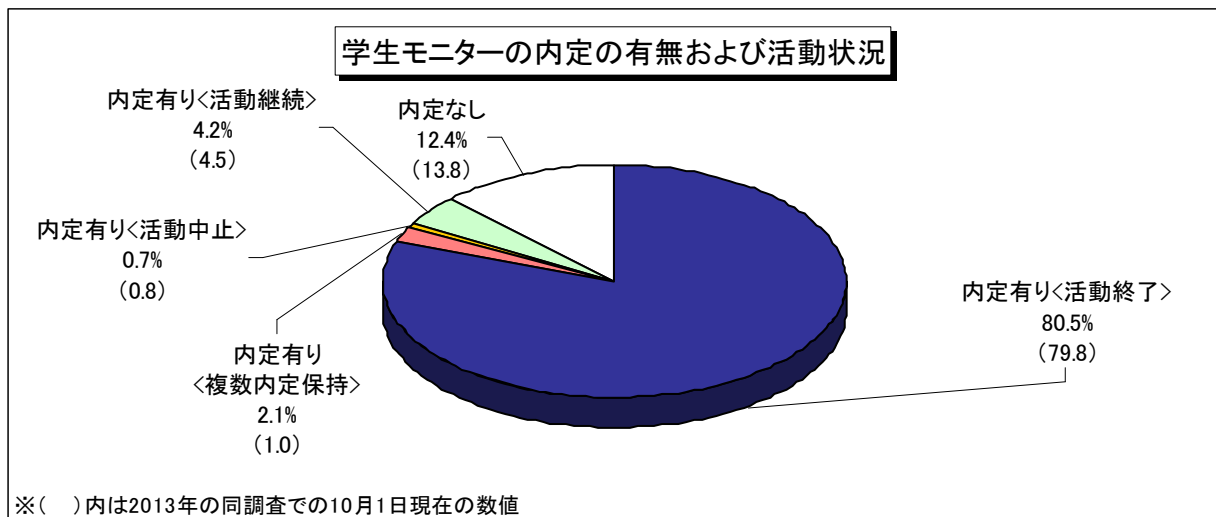
10月1日現在の内定の状況

*「内定」には、内々定を含む (%)

		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		87.6 (86.2)	84.1 (83.1)	89.0 (90.1)	87.5 (85.0)	93.3 (87.9)
内定なし		12.4 (13.8)	15.9 (16.9)	11.0 (9.9)	12.5 (15.0)	6.7 (12.1)
内定社数(平均/社)		2.0 (2.0)	2.2 (2.1)	2.0 (1.9)	1.9 (1.9)	1.9 (2.1)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	91.9 (92.7)	89.4 (92.2)	91.2 (91.9)	94.2 (94.1)	94.1 (92.4)
	終了したが複数内定保持	2.4 (1.1)	2.2 (0.9)	3.3 (1.3)	2.4 (0.7)	1.3 (2.3)
	進学などの理由で活動を中止	0.8 (0.9)	0.6 (0.6)	0.7 (0.6)	1.0 (1.7)	0.7 (0.8)
	就職活動継続	4.8 (5.3)	7.7 (6.3)	4.7 (6.1)	2.4 (3.5)	3.9 (4.6)

※()内は2013年の同調査での10月1日現在の数値

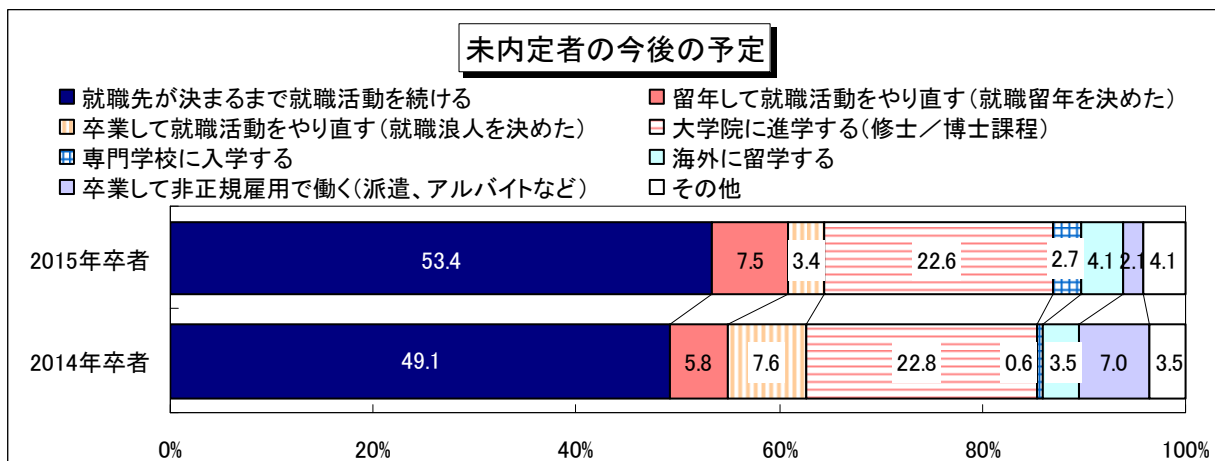




2. 未内定者の今後の予定

10月1日現在で内定を得ていない学生（モニター全体の12.4%）に、今後の予定を尋ねた。前年同様「就職先が決まるまで就職活動を続ける」（53.4%）が最も多く、半数を超えている。「留年して就職活動をやり直す（就職留年を決めた）」（7.5%）という計画留年組が前年より増えた一方で、「卒業して就職活動をやり直す（就職浪人を決めた）」（3.4%）が同4.2ポイント減、同じく「卒業して非正規雇用で働く（派遣、アルバイトなど）」（2.1%）が4.9ポイント減であった。非正規雇用や未就業のまま卒業しても構わないと考える層は減っているようだ。

未内定者の今後の進路は文理や男女で大きな差があり、文系女子は就職活動継続者が突出して多い（73.5%）。理系は「大学院に進学する」が多い傾向がある（理系男子40.5%、理系女子63.6%）。



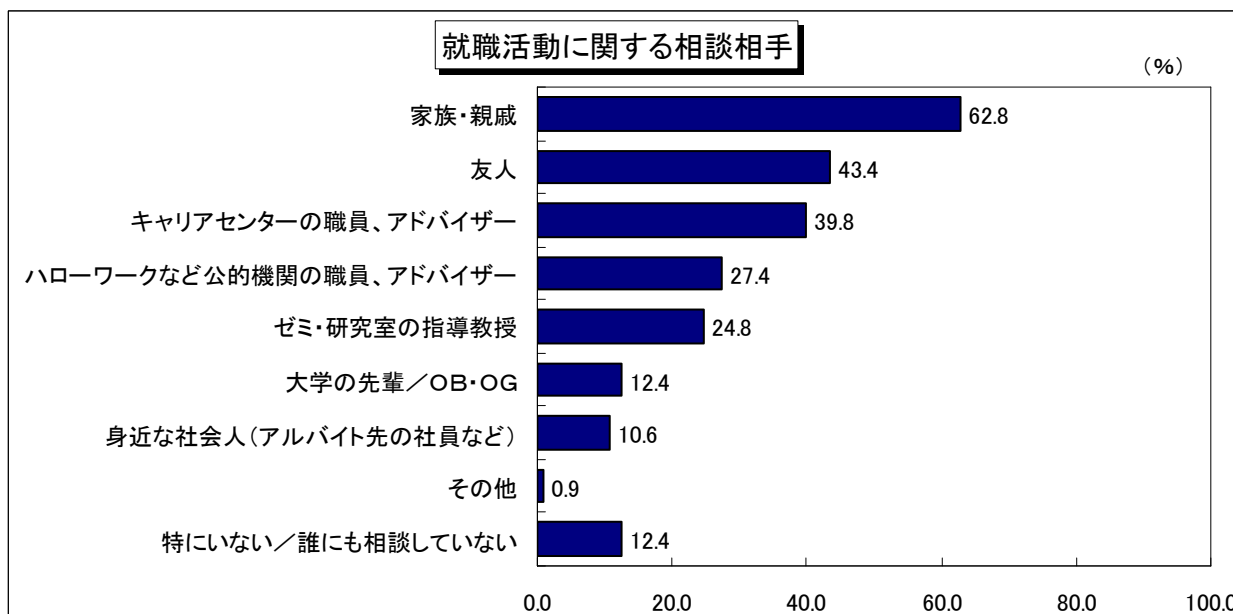
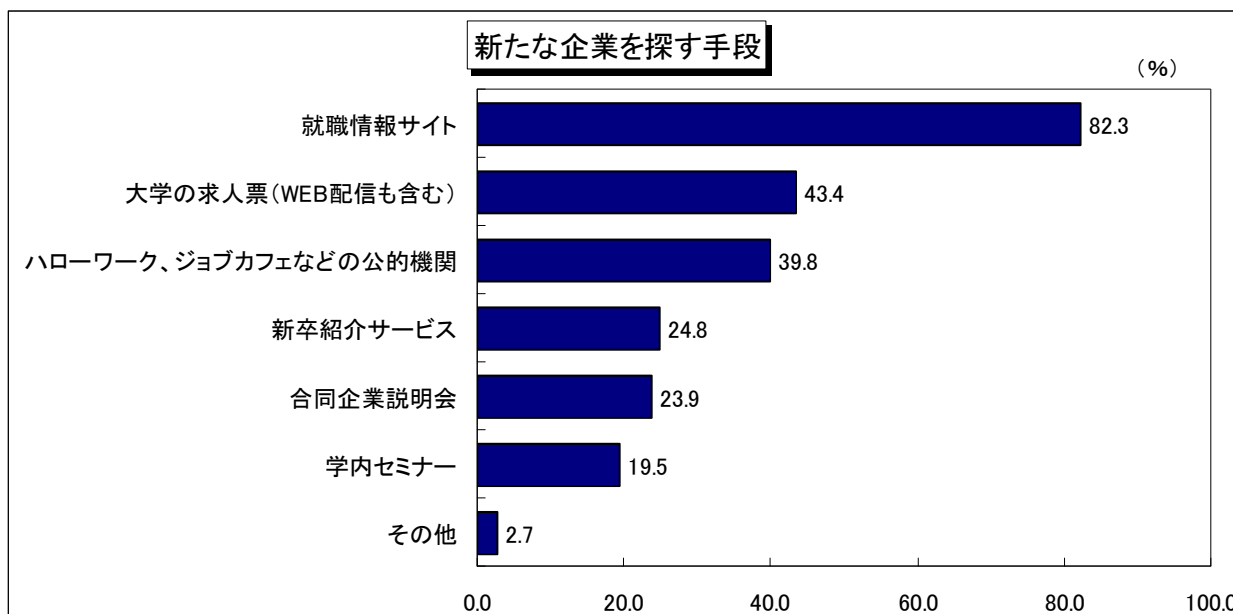
(%)

	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
就職先が決まるまで就職活動を続ける	59.3	73.5	40.5	9.1
留年して就職活動をやり直す(就職留年を決めた)	8.5	0.0	9.5	18.2
卒業して就職活動をやり直す(就職浪人を決めた)	8.5	0.0	0.0	0.0
大学院に進学する(修士/博士課程)	5.1	17.6	40.5	63.6
専門学校に入学する	3.4	5.9	0.0	0.0
海外に留学する	6.8	0.0	2.4	9.1
卒業して非正規雇用で働く(派遣、アルバイトなど)	1.7	2.9	2.4	0.0
その他	6.8	0.0	4.8	0.0

3. 就職活動継続者の状況

就職活動継続者のうち 9 割弱 (88.3%) が新たな企業を探しており、その手段として最も多いのは「就職情報サイト」82.3%である。次いで「大学の求人票 (WEB 配信も含む)」43.4%が続く。また、4 番目に上がった「新卒紹介サービス」(24.8%) は、前々年 (15.5%)、前年 (21.4%) と毎年増加しており、学生が新たな企業を探す有力な手段の一つとの認識が高まっている。

就職活動に関する相談相手は、「家族・親戚」が 62.8%と最も多い。就職活動に行き詰って親を頼りにしている姿が垣間見える。次いで「友人」(43.4%) が 2 番目に挙がっているが、「家族・親戚」より 20 ポイント近く少ない。就職活動後半戦ともなると友人には相談しにくいのだろう。「キャリアセンターの職員、アドバイザー」(39.8%) は、前年 (42.9%) より 3.1 ポイント減少している。

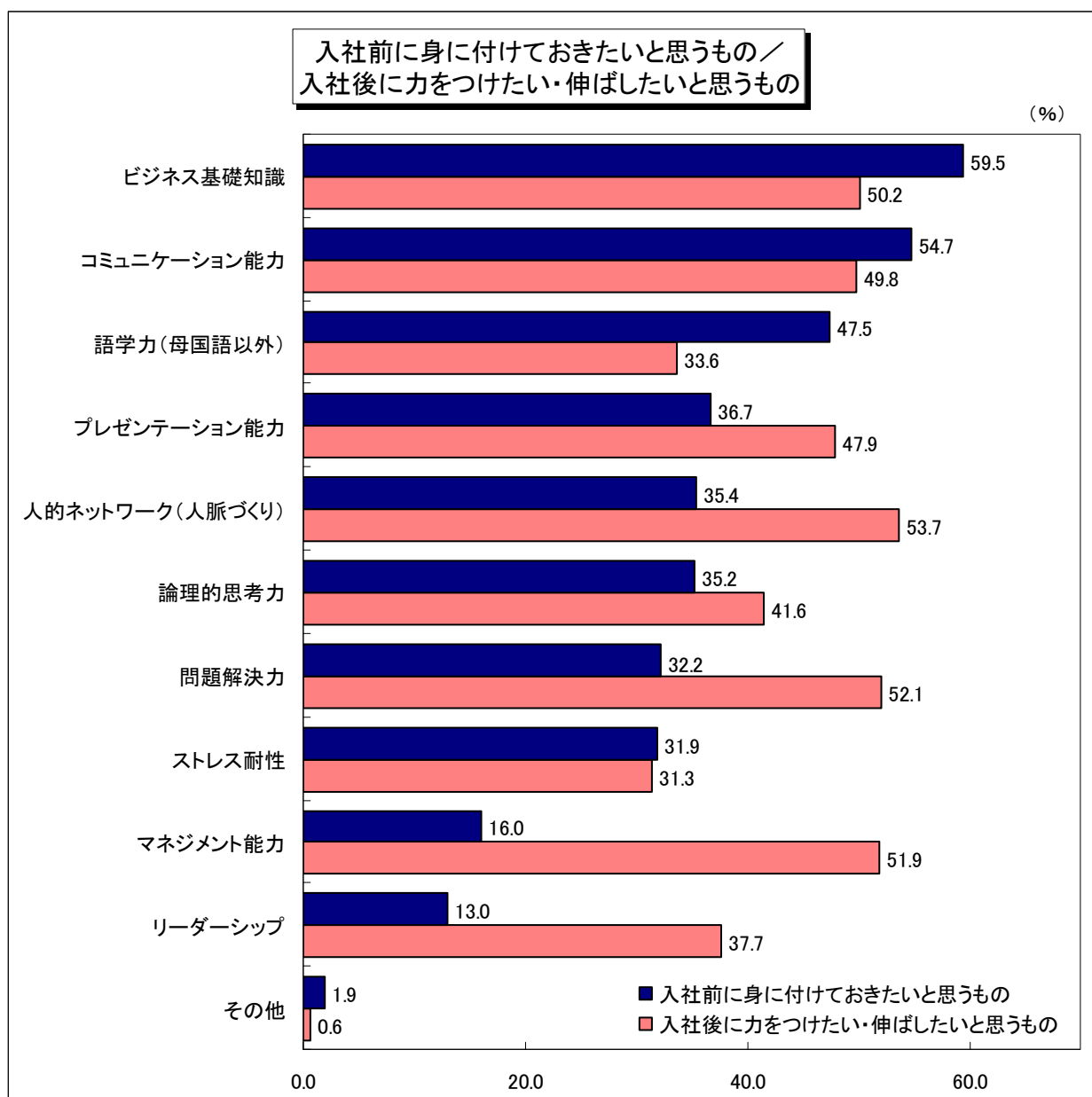


4. 入社前後に身に付けておきたいこと

就職活動を終えた学生は、入社までにどんなスキルを身に付けたいと考えているのだろうか。最も高いのは「ビジネス基礎知識」59.5%で、6割弱の学生が回答した。次いで「コミュニケーション能力」(54.7%)、「語学力(母国語以外)」(47.5%)と続く。

一方で、入社後に力を付けたい、伸ばしたいと思うスキルについて同じ項目で尋ねたところ、「人的ネットワーク(人脈づくり)」(53.7%)が最も高かった。次いで「問題解決力」(52.1%)、「マネジメント能力」(51.9%)が僅差で続く。入社前に最も身に付けたいと考えている「ビジネス基礎知識」は50.2%と4番目だった。

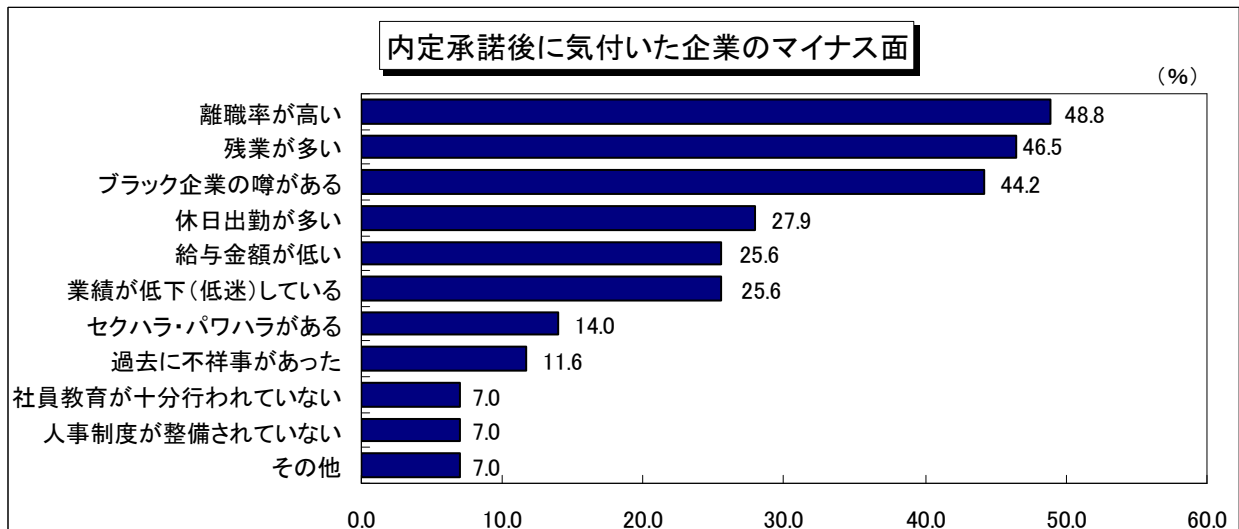
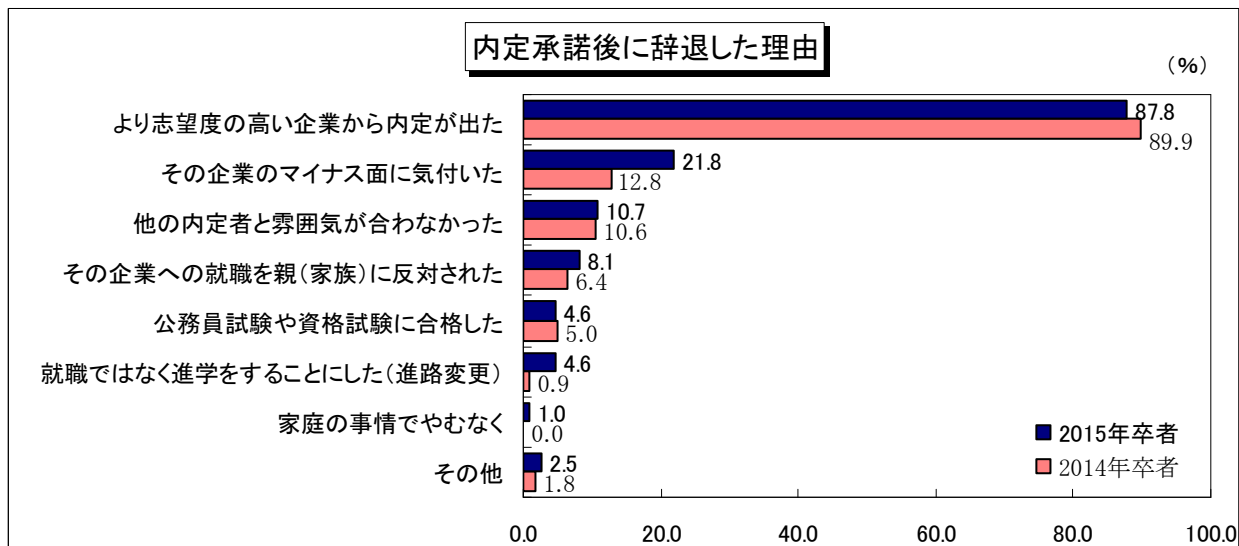
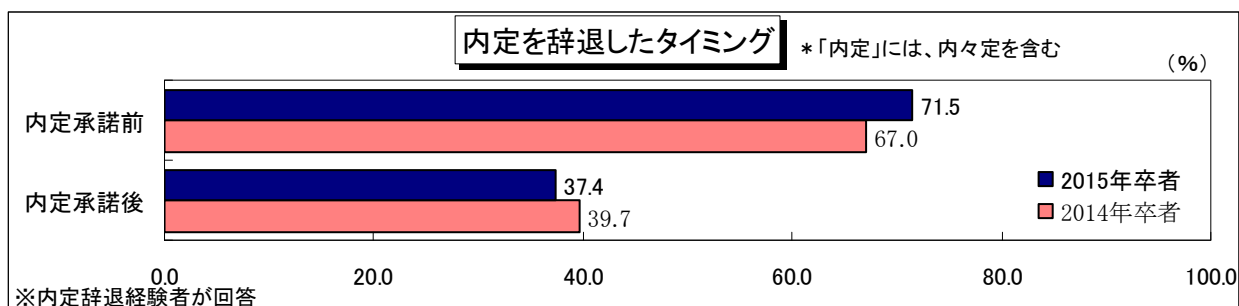
仕事のストレスから生じるメンタルヘルス不調による若手社員の休職・離職が社会問題となる中、「ストレス耐性」(31.3%)は、意外にも入社後のスキルの中で最も低い結果となった。



5. 内定承諾後の辞退

内定を得た学生のうち、内定を辞退したことがあるのは51.1%で、前年同期(51.6%)とほぼ同率だった。辞退のタイミングを聞いたところ、「内定承諾前」が71.5%、「内定承諾後」が37.4%と、前年より承諾後の辞退がやや減少した。承諾後に辞退した理由を尋ねると、「より志望度の高い企業から内定が出た」が87.8%と圧倒的に多かった。承諾前か後かは関係なく、学生は志望度優先で就職先を決めることがよく分かる。次に多いのは「その企業のマイナス面に気付いた」21.8%で2割強。前年(12.8%)から9.0ポイント増加した。

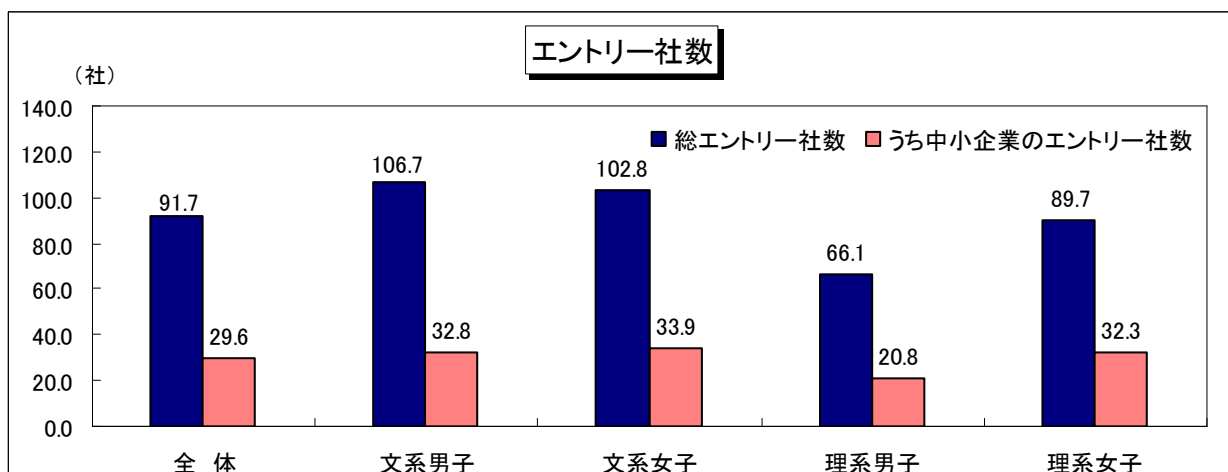
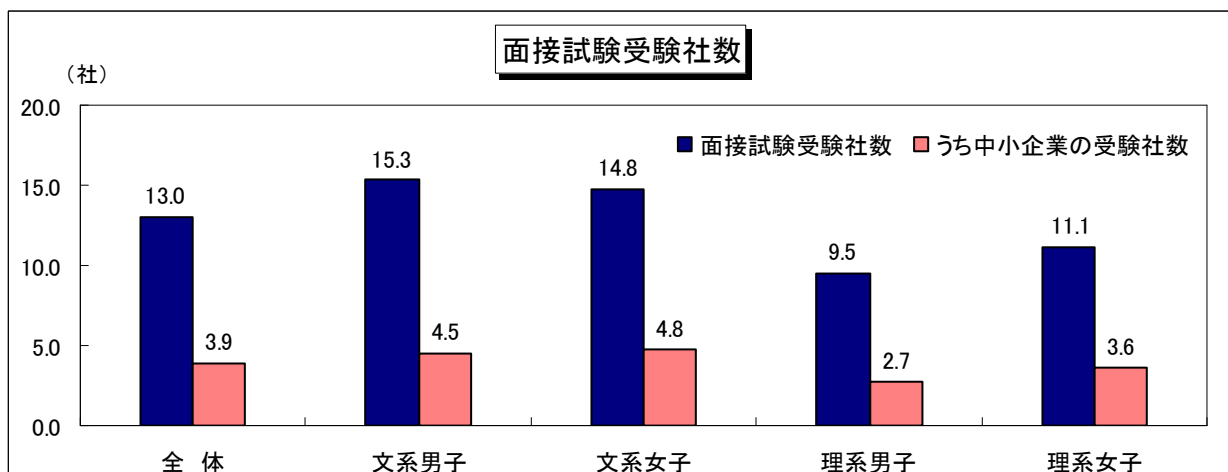
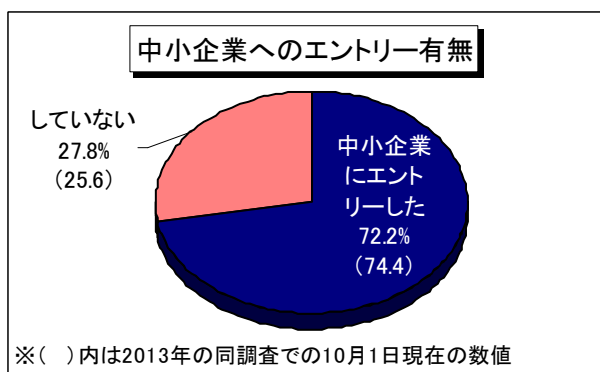
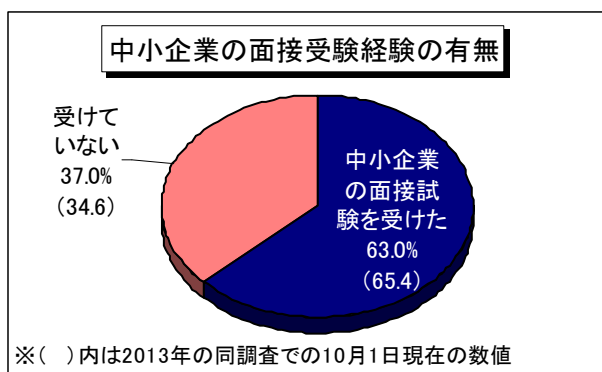
企業のマイナス面の内容としては、「離職率が高い」(48.8%)、「残業が多い」(46.5%)、「ブラック企業の噂がある」(44.2%)など、ブラック企業に関連する項目が上位に挙がった。

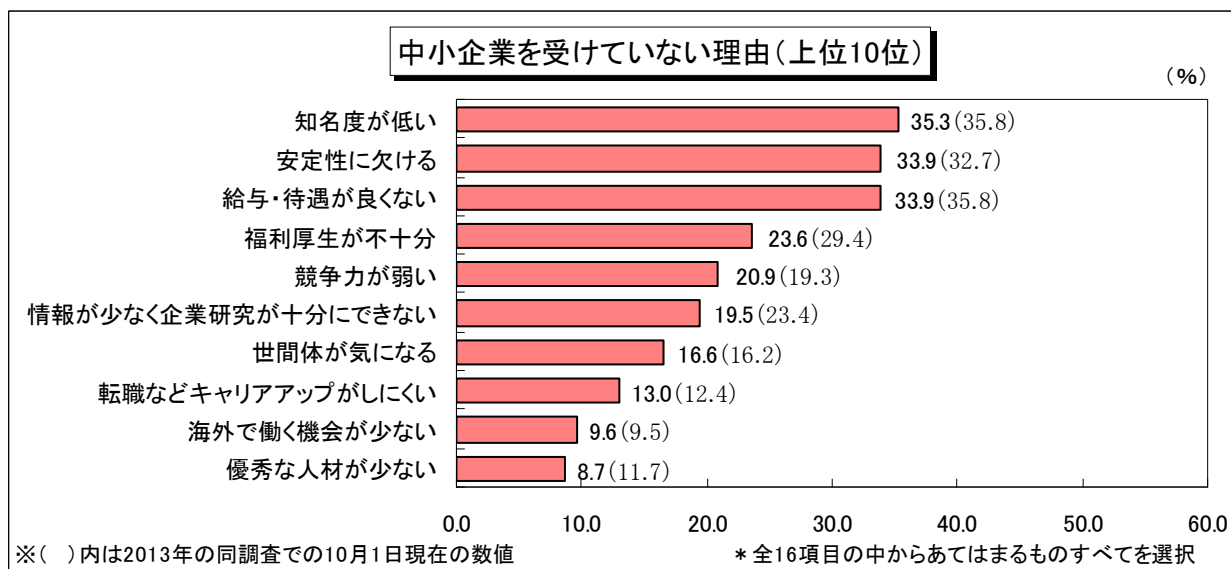
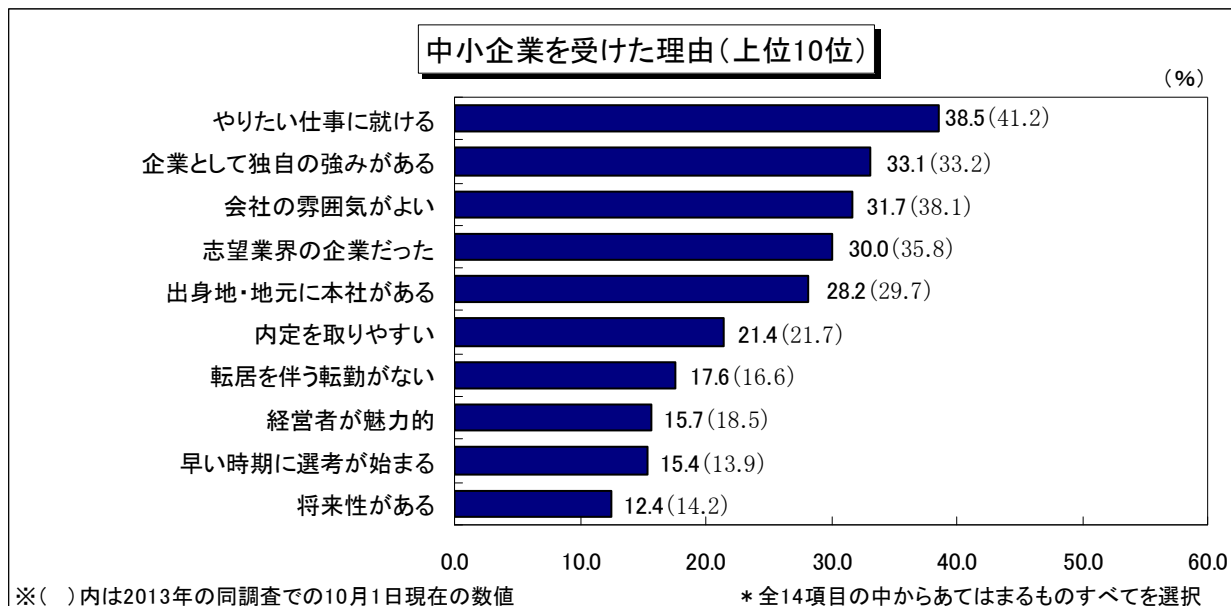


6. 中小企業への選考応募状況

従業員300人未満の中小企業の選考について尋ねたところ、「中小企業の面接試験を受けた」は63.0%で、前年調査(65.4%)より2.4ポイント減少。

中小企業を受けた理由を見ると、応募の入口に繋がるキーワードは、「仕事」「業界」「場所(地元か否か)」であった。逆に、受けない理由は、「知名度」「安定性」「給与・待遇」などへの不安が上位にきている。(いずれもグラフは次ページに掲載)





■ 中小企業を受けた印象 (大手企業と比較して改善すべきだと思った点など)

- 大企業と同じ事をアピールされても、あまり魅力に感じないので、中小企業こそ、社内の雰囲気を伝える機会をつくったり、ちょっと変わった選考をすべきと思った。 <文系女子>
- 明確な採用基準が見えてこなかった。 <文系男子>
- 大企業と違い、まず存在を知ることから始まるため、大企業以上に広告を利用し、存在を広め、かつ魅力を伝える必要があると思う。 <文系男子>
- 企業を知る機会を様々な方法で与えてもらえると、より企業の良さがわかったと思います。 <理系女子>
- ホームページはそれなりに充実させてほしい。説明会などが無い分、情報を得る機会が少ないから。 <文系女子>
- やはり福利厚生などで大企業と少し差がでる部分はあった。しかしそれよりも社長の熱意であったり、雰囲気の良さなど、大企業ではない良さも持っていると思った。 <理系男子>
- 就活の中で、規模の小さい企業であるほど即戦力を欲しがっていると感じた。そのことをもう少し説明会などで伝えるべきだったのではと思う。 <理系女子>

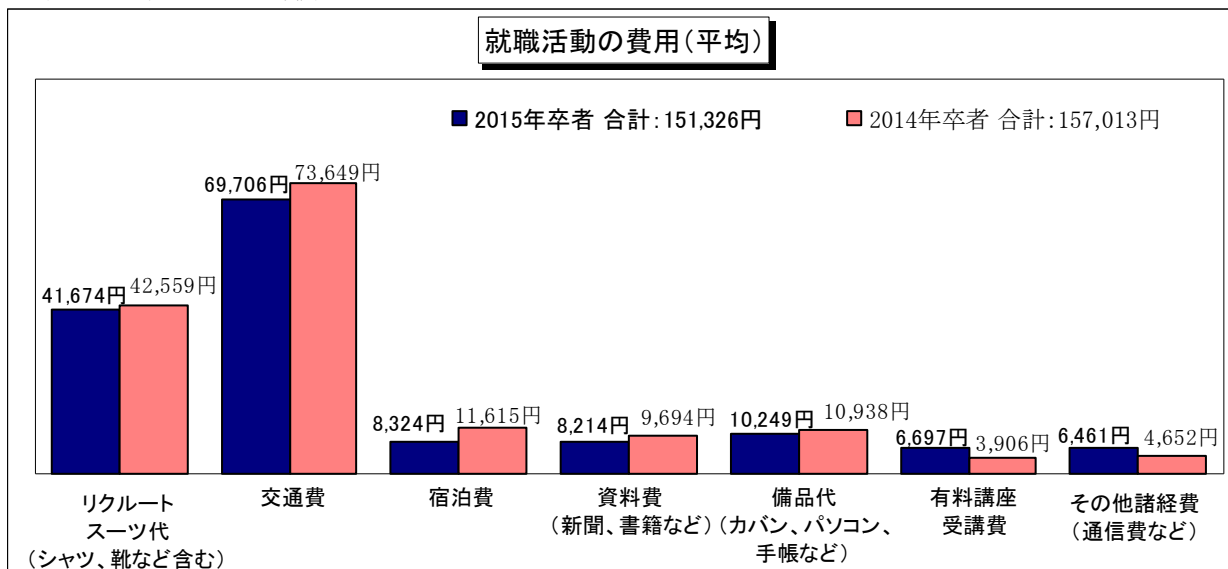
7. 就職活動の費用

就職活動にかかった費用について、「リクルートスーツ代」「交通費」「宿泊費」「資料費」「備品代」「有料講座受講費」「その他諸経費」の7つの項目ごとに金額を聞いた。各項目の平均を算出し足しあげると151,326円となり、前年調査(157,013円)より5,600円余り下回った。

就活費用のうち最も多くを占める「交通費」は、前年の73,649円から69,706円へと約4,000円減少した。前年は10万円を超えた地域は「北海道」「東北」「中国・四国」「九州・沖縄」の4地域だったが、今年は「九州・沖縄」のみであった。「宿泊費」は、前年の11,615円から8,324円へと約3,300円減少した。「近畿」以外の全地域で減少しており、とりわけ「東北」は前年の24,451円から9,574円へと大きく減少した。地方の交通費・宿泊費の減少は、WEBセミナーが一般化してきたことや企業の交通費補助の増加などによるものと推察される。

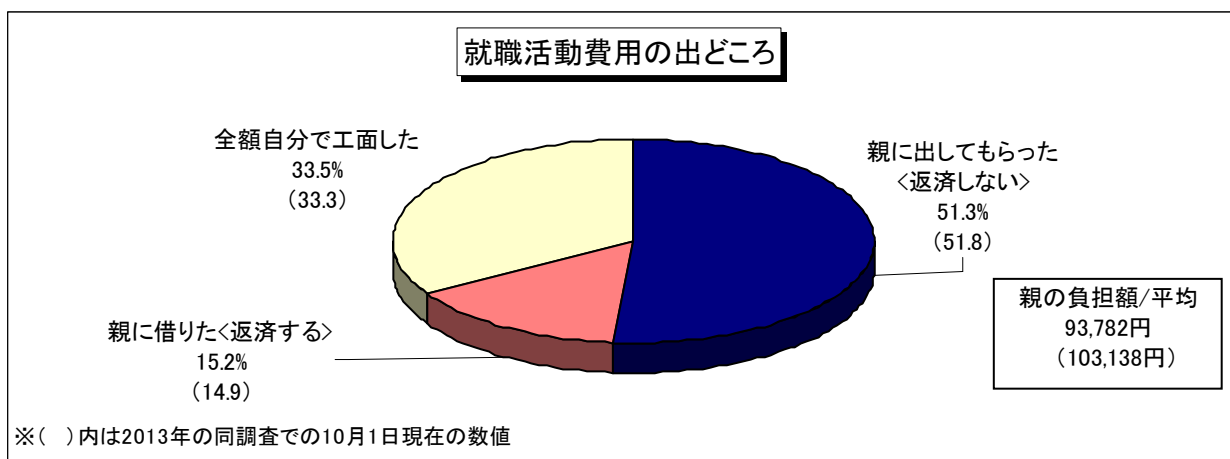
全体の費用を地域別に見ると、平均額が最も高いのが前年同様「九州・沖縄」で、203,595円。前年20万円を超えていた「北海道」「中国・四国」は20万円を下回った。全体の金額が低いのは「関東」125,700円、「近畿」158,677円といった大都市圏。交通費・宿泊費の違いが合計額に大きく影響している。

就職活動費用の出どころは、「親に出してもらった(返済しない)」が51.3%と今年も過半数。但し、総費用の減少に伴い、親の負担額も前年より約1万円減で10万円を割った(93,782円)。(グラフは次ページに掲載)



(円)

	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄
合 計	173,721	167,869	125,700	161,839	158,677	182,194	203,593
リクルートスーツ代	36,009	41,799	44,382	38,730	42,345	33,167	40,252
交通費	82,883	88,128	46,390	77,642	78,726	99,042	114,494
宿泊費	25,943	9,574	1,115	8,807	7,740	22,361	26,213
資料費	6,094	6,035	9,686	7,281	7,790	7,722	6,288
備品代	8,349	9,402	10,832	11,347	10,887	7,931	7,073
有料講座受講費	8,679	7,365	7,091	8,753	4,936	4,819	5,270
その他諸経費	5,764	5,566	6,205	9,279	6,253	7,153	4,003



■就職活動の費用について

- 交通費と、スマホ代が掛かるようになった。特に、これまでガラケーだったので、その差は大きい。
<総額 165,000 円>
- 地方に住んでいるのである程度覚悟していましたが、交通費をそれまで貯めていたアルバイト代から捻出するのは苦しかったです。
<総額 140,000 円>
- 大阪、東京でしか説明会が開催されていないことが多く、交通費・宿泊費が大きな負担だった。また、部活動をしていることもあり、日帰りになることが多かったので、人一倍お金がかかった気がする。
<総額 215,000 円>
- スーツは大学入学式のスーツを買う時点で、リクルート用を選んだ。
<総額 89,000 円>
- スーツ代の負担が大きかったのでリクルートスーツ以外のスーツを使えるような習慣が根付いてくれるとありがたいように思う。
<総額 120,000 円>
- 経費は自分で工面するしかなかったので、結構大変だった。
<総額 94,000 円>
- 時間が半端になることが多いので、食費やカフェでのお金がかかる。
<総額 133,000 円>

8. 求人票の認知度

弊社の企業調査によると、2016 年度採用に向けて企業が最も注力したいと考えるのは「大学との関係強化」(2015 年度新卒採用に関する企業調査-内定動向調査より)である。そこで学生が求人票の存在をどの程度認知しているか確認したところ、求人票を「知っている」のは 61.9%で 6 割強。一方、「知らない」は 38.1%で、4 割弱が存在を認知していなかった。10 月時点で就職活動を継続している学生が新たな企業を探す際、2 人に 1 人が大学の求人票を活用しているが(4 ページ)、もっと早い段階から企業認知を高める手段として活用してもらいたいところだ。

